令和８年産

ＪＡえちご中越 さんとう地域「ゆきみらい」栽培暦

契約栽培もち米生産者部会

月	４月					５月					６月					７月					８月					９月				
日	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25
出穂前後日数															-23		-13		0						+37					

生育ステージ

種子消毒（温湯消毒）

浸種開始　4月 3日頃

催　芽　4月13日頃

播　種　4月15日頃

播種量の目安：160g／箱

育苗日数は20日程度

田植え　5月初め

中干し開始　6月10日

1回目穂肥　6月27日

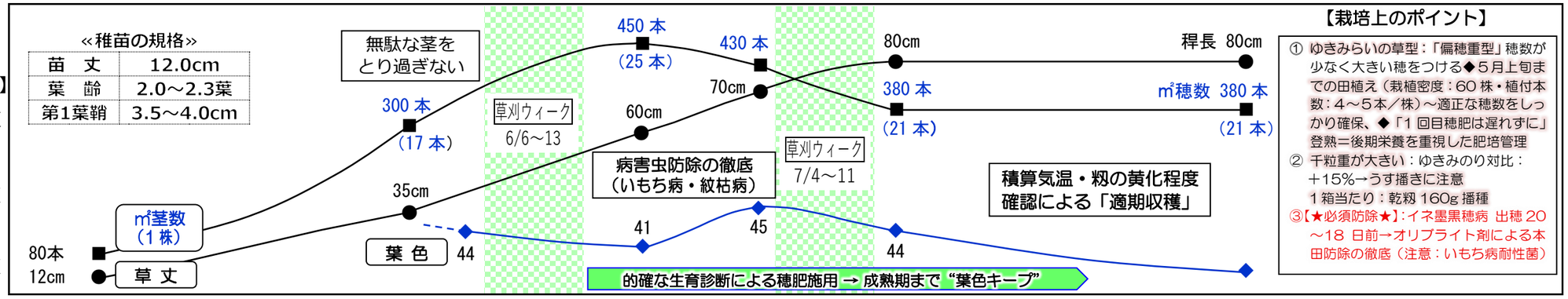
2回目穂肥　7月7日

出穂期　7月20日

ゆきみのりより出穂が1日早い

収穫期　8月26日～

稲わら秋すき込み



【栽培上のポイント】

① ゆきみらいの草型：「偏穂重型」穂数が少なく大きい穂をつける◆５月上旬までの田植え（栽植密度：60株・植付本数：4～5本／株）～適正な穂数をしっかり確保、◆「1回目穂肥は遅れずに」登熟＝後期栄養を重視した肥培管理

② 千粒重が大きい：ゆきみのり対比：＋15%→うす播きに注意
1箱当たり：乾籾 160g 播種

③【★必須防除★】：イネ墨黒穂病 出穂20～18 日前→オリブライト剤による本田防除の徹底（注意：いもち病耐性菌）

病害虫防除

“出穂が早い”→ほ場選定・団地化で「鳥害防止」!!

《初期害虫・イネ墨黒穂病予防》
◎推奨資材◎【ブーンパディート箱粒剤】
または　【ルーチンブライト箱粒剤】

6月中下旬～
葉いもち病 ―早期発見 早期防除

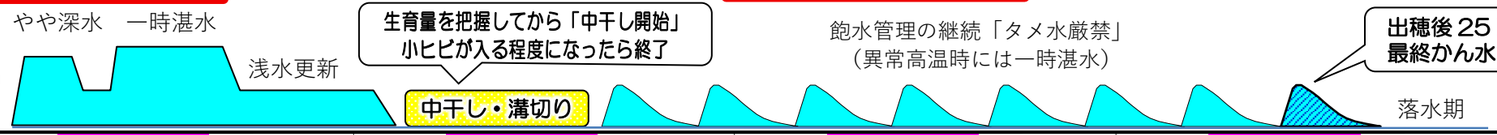
★必須防除★ イネ墨黒穂病対策
【オリブライト２５０Ｇ】
出穂前20～18日(7月1～3日)

【カメムシ防除】
スタークル粒剤
穂ぞろい期（出穂5～7日後）

収穫前に圃場内の「イネ墨黒穂病」病害粒の有無確認！
午後からの刈り取り・刈り分け徹底！

水管理

- 田植後→3～4㎝のやや深水で植え傷み回避
- 活着後→2～3㎝のやや浅水で早期分げつ促進
- 除草剤散布時→湛水状態（水深5～6㎝）で散布
- 中干し開始まで→浅水更新でワキの発生防止



栽培管理のポイント

Point 1

～健苗育成により初期生育をしっかり確保します～

① 適正播種量：千粒重が大きいことから播種量は160ｇを確保
適期播種（4/15）～育苗期間20日で健苗育成

② 移植前追肥（べんとう肥）の施用→活着・初期生育の促進

③ 基肥N施肥量は「5kg/10a」をめやす→土壌診断結果にもとづく「土づくり肥料の施用」

Point 2

～適期田植で初期生育を確保します～

① 作土深15㎝以上を確保

② 田植えの目安は5月初め→他の早生品種との収穫時期を考慮

③ 分げつしにくい品種特性
→ 穂数不足になりやすい
＝ 過度な疎植を避ける
*栽植密度：６０株／坪
*植付本数：４～５本／株
*植付深さ：２～３㎝の浅植え

Point 3

～生育･気象に応じた中干しで良質茎を確保します～

① 目標茎数：300本／㎡、1株あたり17本／株を確保したら適期中干し開始

② 全ほ場で溝切り→高温時・降雨時の速やかなかん水・排水管理

③ 本格的な梅雨入り前に地固め開始→中干しは小ヒビが入る程度になったら終了～遅くとも出穂30日前までに間断かん水へ移行

Point 4

～病害虫防除と水管理の徹底で稲体機能を維持します～

① ★イネ墨黒穂病★「必須防除」いもち・紋枯病→発生しやすい地域・ほ場では予防防除を徹底

② 中干し以降は、田面が強く乾くことのないよう飽水管理を継続（強い中干し・タメ水→厳禁）

③ 出穂後25日以降に最終かん水を実施（暗渠栓開放→遅く）
異常高温時：速やかに一時湛水

Point 5

～適切な生育診断による穂肥施用→品質･収量を確保します～

① 穂肥は出穂23日前（幼穂形成期）と13日前の2回に分けて施用する → N：2～3kg／1回

② 1回目穂肥（N：3kg/10a）は、幼穂形成を確認しながら施用時期が遅れないよう注意する

③ 出穂期の葉色が「44」を大きく下回らないよう2回目穂肥は確実に施用する（N：2kg/10a）

Point 6

～適期刈取、適切な作業により高品質米に仕上げます～

① 積算温度のめやす：975℃
積算気温・籾の黄化程度（85～90%）を確認→適期に収穫

② 穂発芽性が「やや易」→収穫が遅れないよう注意する

③ うるち品種や病害粒等を混入させないため、清掃を徹底～適正温度の乾燥で胴割米の発生防止
～篩い目：1.85ミリ以上

≪施肥のめやす≫

（成分kg／10a）

区分	時期	N成分	備考
土づくり	収穫後	―	稲わら秋すき込み 有機質･けい酸質資材
基　肥	～ 田植え	5.0	過剰施肥を避ける
穂肥１	出穂23日前	3.0	遅れずに施肥～籾数確保
穂肥２	出穂13日前	2.0	しっかり施肥～登熟向上
合　計	―	10.0	＊一発基肥トータルN：10㎏

≪生育のめやす≫

生育ステージ	時期	草丈（㎝）	茎数（本／㎡）	葉色（SPAD）
１回目穂肥	6/27	60	450	41
２回目穂肥	7/7	70	430	45
出穂期	7/20	80（稈長）	380（穂数）	44
成熟期	8/26（+37日）	生葉数 3	倒伏程度 1以下	

≪品質向上・収量確保目標≫

玄米1等級比率	90%以上
10ａ当たり収量	660㎏

≪品種特性≫

早晩性	耐倒伏性	葉いもち	穂いもち	紋枯病
早生	やや強	やや強	弱	やや弱

≪収量構成要素≫

収量（kg／10a）	1穂籾数（粒）	穂数（本／㎡）	㎡籾数（百粒）	登熟歩合（%）	千粒重（g）
660	80	380	304	88.0	24.5
参考：ゆきみのり 660	82	490	400	78.0	21.0